



正確な会話の文字起こしで聴覚障がい者の活躍を後押しする

## Pekoe (ペコ)

Pekoe (ペコ) は会話の音声文字起こしで「見える化」するサービスです。今回、株式会社リコーの方に記事の執筆をお願いすることができましたので、掲載します。

### 1. Pekoe 開発の経緯

Pekoe は株式会社リコーの新規事業創出プログラム TRIBUS(トライバス)で採択された聴覚障がい者向けコミュニケーションサービスです。元々は、電子黒板上で動く議事録システムとして開発しましたが、「この仕組みがあれば聴覚障がいのある方も助かる」という声を受け、2019年から当事者へヒアリングを開始し、あらためて聴覚障がい者向けのサービスとして、開発に着手しました。

### 2. Pekoe のサービスについて

Pekoe を開発するにあたり、利用者の声を徹底的に尊重し、ヒアリングを重ねて以下の機能を搭載しました。

- ①会話のリズムをそのまま伝えられる、リアルタイム表示機能
- ②チャットや「いいね！」などの双方向コミュニケーション機能
- ③誰もが気軽に・簡単に修正ができる機能
- ④音声の特徴をとらえて話者を表示する機能



オンライン会議で Pekoe を活用し、自分の発言をチャットで入力

Pekoe の導入だけでは、当事者が1人で利用し、十分にサポートを得られないケースがあることが分かり、共に働くメンバーが聴覚障がいを理解し、協力関係を構築していけるよう、「聴覚障がいの正しい理解と Pekoe の活用方法」というセミナーも提供しています。

### 3. Pekoe 導入の効果

Pekoe を活用し、メンバー全員がセミナーを受講したとあるチームでは、聴覚障がいについて理解を深めたことで、リーダー自身が行動を変え、チームの意識が変わってきたという事例があります。



ディスカッションの場での活用

チームリーダーの方いわく、「いままでは事象と結果だけを簡潔に伝えることしかしていなかった。しかし何が課題でどんな取り組みをすべきかを一緒にディスカッションするようになっていったところ、当事者のメンバーが自分で考えて改善を提案してくれるようになった。」というのです。

このチームの当事者からは「メンバーが協力してくれているので、自分も結果で返さなければ！と感じている」と意欲的なコメントをしてくれています。

## 4. これから社会に出る聴覚障がいのある皆さんへ

聴覚障がいのある方は、情報が少ないがゆえに発言に自信が持てない、分からないと言えない・言いにくい、という状態が課題にあると思います。Pekoeのような音声認識を使ったサービスが増えている今だからこそ、積極的に自分から活用をしていき、仲間との理解を進め、自分ができることできないことを正確に伝えていけるようになって考えています。

これから先、聴覚に障がいがあっても関係なく、やりたい仕事につけるような社会にしていけるよう、サービス提供者としても頑張りますので、支援の先生方とともに、やりたいことを見つけ、その夢を実現すべく様々なことに挑戦して行ってほしいと切に願っています。そのために必要な機能があればどんどん要望を送ってください！お待ちしております。

(参考) Pekoe ホームページ <https://pekoe.ricoh/>

### 紙上報告①

## 第17回「きこえない」を知る二日展

11月8日(金)及び9日(土)に、本校文化祭にて、第17回「きこえない」を知る二日展を開催しました。紙面にて、展示の内容をお伝えします。

### VUEVO (ビューボ)

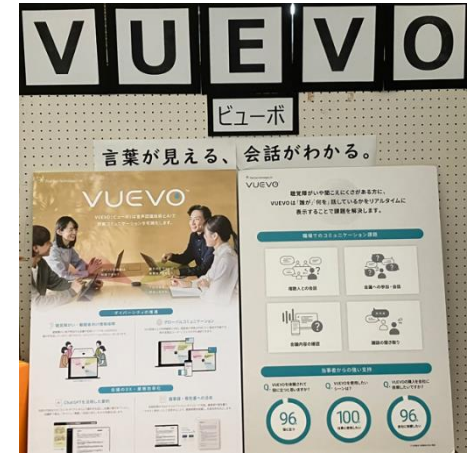


発言内容を文字化する新しいサービス「VUEVO (ビューボ)」の実物を展示しました。複数人と会話する状況では、補聴器や人工内耳などを使用していたとしても、複数人の会話の場でのコミュニケーションが難しい、声の方向がわからない、ききわけが難しいといった課題がありますが、この課題を解決するために開発されたのが VUEVO (ビューボ) です。

二日展では、「誰が」「何を」話したかをリアルタイムに視覚化する様子を、来場者に体験していただきました。

方向によって色分けされることで、どの方向(誰)から何を話しているかがわかりやすく、発言した内容がリアルタイムで映し出される様子に、多くの方が感心されていました。また、英語や韓国語、中国語など、さまざまな言語に対応しており、瞬時に日本語に翻訳されていく様子に驚かされている様子が見られました。

(参考) VUEVO ホームページ <https://vuevo.net>

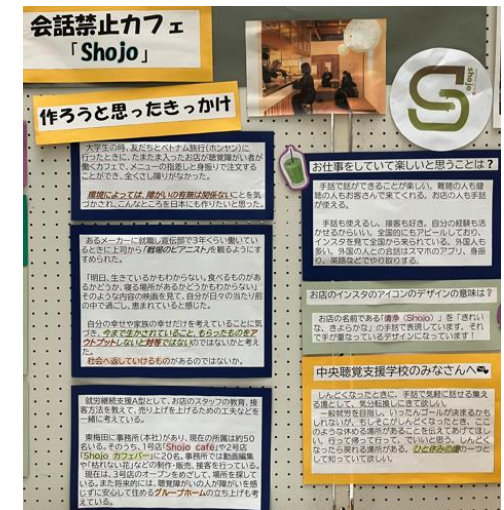


## 会話禁止カフェ～清浄 (shojo) ～



『環境づくりで障がいはなくせる!』という思いから、カフェでの会話は、筆談や手話、身振りを取りいれることにより、聴覚障がい者が障がいを感じない環境になっています。また、音のない空間にするために、店内には、筆談用にノートやペ

大阪市中崎町にある、聴覚障がいのある店員が働く『会話禁止カフェ～清浄 (shojo)』について紹介しました。都会や日常の喧騒から一旦離れてみたい方が、BGMがなく音のないただ無の空間を味わえる、静寂を楽しむというカフェです。





ンがいろいろな場所に置かれており、スタッフと手話で話したいのか、または一人で静寂を楽しみたいのか、気持ちを伝えるカードも準備されており、店内では静寂を楽しむためのいろいろな工夫がされていました。また、実際に働くスタッフの方へインタビューした内容も展示しました。



(参考) Instagram アカウント shojo-cafe

## 第13回 みみネット アカデミー

本校には聴覚障がい児教育に関する高度な専門的知識や技能をもつ教職員がおり、その知識・技能の提供および伝達をととしてセンター的機能を果たすため、毎年「みみネットアカデミー」を開催しています。本校が毎月発行している聴覚障がい教育支援情報紙「みみネット」から、さらに一歩進んだ内容となっています。



<期 日> 令和7年1月6日(月)

<対 象> 大阪市および守口市内の学校園の教職員  
大阪府下の高等学校および支援学校の教職員

<プログラム>

- |             |  |
|-------------|--|
| 14:00~14:20 | 受付   |
| 14:20~14:25 | 開会式  |
| 14:25~15:25 | 講座1「きこえにくい子どもの心と体と保護者の想い」<br>講師：本校指導養護教諭 岡本 宏美 |
| 15:25~15:35 | 休憩   |
| 15:35~16:35 | 講座2「私が感じたきこえる世界」<br>講師：本校教諭 志村 昌彦(小学部)         |
| 16:35~16:40 | 閉会式  |

### 講座1

#### 「きこえにくい子どもの心と体と保護者の想い」

きこえにくい子どもの心理や、保護者の想いについて、養護教諭として日ごろから感じていることをお話し、本校の通級指導担当や、参加者のみなさんとも情報交換をしつつ理解を深めたり、支援のあり方を考えたりする時間にできればと考えています。(岡本宏美)



### 講座2

#### 「私が感じたきこえる世界」



講師自身の聾学校での幼少期、小中高大学の聴者の中での暮らし、社会での聴者社会からろう者社会参加への変遷、その度々の心理。一人暮らしのマンションにて洗濯機の水漏れから階下の人とのトラブル、などなどおもしろおかしハプニングエピソードもりたくさん！奮ってご参加ください。(志村昌彦)

申込締め切り(必着)  
12月16日(月)

<定 員> 25名(定員になり次第締め切ります)

<会 場> 大阪府立中央聴覚支援学校  
(大阪市中央区上町1-19-31)

<申込み> 学校園にメール配信している申込用紙に必要事項をご記入のうえ、郵送か送付、またはFAXにて下記までお送りください。

送郵便 ▶ 中央区 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部宛

郵 送 ▶ 大阪市中央区上町1-19-31 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部宛

F A X ▶ 06-6762-1800

<お問い合わせ> 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部(担当：金森)

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森

〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800